

(1) 事業名称等

- 【事業名称】 歴史的建造物修復技術講習会
- 【実施団体】 社団法人 富山県建築士会
- 【事業経費】 576,000 円

(2) 事業の目的

現在富山県内の重要伝統的建造物群保存地区は南砺市相倉ならびに菅沼と高岡市山町筋が選定されており、また高岡市金屋町や吉久地区も重伝建地区を目指し動きは始めている。その他富山県内には滑川や岩瀬など古い町並みや歴史的建造物が残っている地域が多くあり、その修理、修景や維持管理に適切な知識と技術をもった設計者が必要とされている。またまちづくりへの関心などから地域の歴史的建造物が評価される機会も増え登録文化財へとつながっていく場合もあり、歴史的建造物の調査などについて専門的な知識を身につけることも必要となってきた。

以上のことから実践的な内容で研修会を行うことを目指した。吉久地区の明治中期に建築された町家を研修会場として実際に調査をおこない、調査結果を報告書としてまとめるところまでを行い、単に知識で終わるのではなく実務に活かすことができる研修とすることを目標とした。また吉久地区の人々には調査の協力をしていただくと共に、地区内の町家でこのような研修をおこなうことで身近に建つ歴史的建造物の価値を認識していただける機会となることを目的とした。

(3) 事業活動の内容

- 名称：歴史的建造物修復技術講習会
- 会場：旧津野家住宅（富山県高岡市吉久）
- 内容：歴史的建造物修復設計のための調査手法の講習

■スケジュール：

- | | | |
|-----|--|-------------|
| 1回目 | 平成23年11月20日（日）9：00～12：00
歴史的建造物の調査手法についての概要説明
平面、展開のスケッチ作成 | 武藤講師 参加者20名 |
| 2回目 | 平成23年11月26日（土）9：00～12：00
実測調査をして平面、展開の野帳を作成 | 参加者14名 |
| 3回目 | 平成23年12月3日（土）9：00～12：00
柱の傾斜、不陸の調査方法、記録方法の研修 | 安田講師 参加者15名 |
| 4回目 | 平成23年12月17日（土）9：00～12：00
破損、腐朽についての調査方法、記録方法を研修し | 橋本講師 参加者13名 |

- その原因を考察する
- 5回目 平成24年1月14日(土) 9:00~12:00 橋本講師 参加者13名
建物に残る痕跡の調査方法、記録方法を研修し
間取りの変遷を考察する
- 6回目 平成24年1月28日(土) 9:00~16:00 武藤講師 参加者12名
痕跡調査の結果をもとに吉久地区の他の建物の類例調査をする
吉久地区の住民より昔の建物や生活について聞き取りをする
- 7回目 平成24年2月18日(土) 9:00~16:00 武藤講師 参加者14名
調査に基づく所見の作成方法の説明を受け
班別に報告書作成作業をする
金沢に移動し、武藤講師の町家改修現場の見学をする

平成24年2月29日(水) 各班ごとに作成した報告書の提出

■講習会の運営：建築士会の中から有志3名が歴史的建造物修復技術講習会運営担当者として講習会運営実務をおこなった。

■協力団体：

- ・(社)金沢職人大学校・・・研修内容、手法に関する助言と講師の紹介
- ・吉久町家まちづくり研究会・・・研修会場の準備、類例調査調査への協力

(4) 事業の成果

■成果①

□成果品として全7回の講習会の研修結果である旧津野家住宅の調査報告書を作成した。

3班を編成し、講習期間終了後に各人持ち帰って作業をおこなった。

報告書の記載内容は以下とした。

- ・野帳をもとに平面図、展開図を作成する
- ・柱の傾斜・不陸図を作成する
- ・破損・腐朽の調査結果を記録する
- ・痕跡調査、類例調査、聞き取り調査から間取りの変遷図を作成する
- ・修理、修復、復元などの提案をする

□今回の講習会は金沢職人大学校で文化財等の修復に関する知識や技術を学ばれた後、現在金沢市で設計事務所を構えて歴史的建造物の修復の実務に携っている講師に指導をお願いした。そのような方から学ぶことで講習内容をより現実感のあるものにすることができ、またそのことは受講者にとって歴史的建造物の修復設計の元となる調査の手法に対する手がかりとすることができた。

□報告書の内容として講師から積算を試みることを勧められたが、今回は報告書作成期間が短くそれは加えることができなかった。またこれも期間の関係で今回の調査対象範囲を1階の室内と限定しており、建物全体を調査することができなかった。この講習会は複数年度の開催を企画しているため、今回実施できなかった上記2点の内容は次年度の講習内容に盛り込むことを目標としている。

■成果②

□今回の講習会は古い町並の残る吉久地区の町家でおこなわれた。町並みの歴史が建物にも反映されている地区なので、類例調査や聞き取り調査などはこのような場所だからこそ調査項目に加え易かったのであるが、それは地区の住民の協力がなくては実現することが難しいことであった。今回その点を地区のまちづくり団体である吉久町家まちづくり研究会の協力が受けられ、地区との関係を調整してもらうことができた。古い町並での調査にはこのような団体の協力は欠くことができないと実感した。講習会には研究会をはじめ地区の住民には自由に聴講してもらった。受講者が古い建物の調査をしている姿を見たり講師の話と一緒に聞くことで、古い建物にも熱心に調査するだけの価値があるのだと身近な建物を見直された方もおられ、講習会が研究会や地区への啓発活動となったことは当初の目標が達成されたと思う。今回地区のまちづくり団体と互いに協力し合えるよい関係を築くことができたことは大きな収穫であった。今後吉久地区に限らず他のまちづくりの活動をはじめようとしている地域でもこうした催しをそこで開催することを通して建築士会が活動の手助けをすることができると思われる。

□講習会の様子が取材され新聞で報道されたことは、「あの家で何かやっている」から「建築士が家の調査の研修をしている」と地区の住民の認識を変えてくれることになった。マスコミの力で活動の様子を地区に知ってもらうことも有効なことだと思った。

(5) 事業実施後の課題

■今まで歴史的建造物に関する講習などへの参加者は高齢層が多くを占めていた。今回は20代、30代の参加者が占める割合が多く若い層にも興味を持ってもらえた企画だったと思う。今後は若い年代層や女性も参加しやすい組織づくりをしなくてはならないと共に、建築士会会員にも歴史的建築物への興味を喚起するような働きかけが必要だと感じる。

■今回の講習会で報告書提出者には講習会修了証を発行する予定でいる。次年度予定している講習会第2期はもちろん、今後の講習会等に継続して修了認定が受けられるような仕組みをつくり受講者の意欲を高めたいと考える。

(6) 今後の展開

■次年度は講習会の第2期を開催し、1期で課題となっていることをおこなうと共に、県内の左官や経師など職人組合とも協力をして技術的な講習内容の研修も計画をしている。そのことを

通して各業種の職人と設計者との協力関係づくりのきっかけとしたい。また今後の講習会の開催や修了者のネットワークのために建築士会内に新たな組織づくりをしていき、そこで講習会修了者が職能を活かした社会貢献ができるような場を作っていけるようにしたいと思っている。今回の講習の成果であった地域との連携も、組織があつてこそ継続していくことができると思う。

■組織としての活動のひとつとして講習会修了者が建築技術者集団として行政とも連携をとり、文化財建造物ならびに歴史的建造物に関する相談窓口の役目をするを旨としていく。また建築士会ホームページを利用して積極的にPR活動をするを計画している。

■継続して講習会を開催することならびに活動をするためには建築士会としての協力が必要であるが、建築士会にとどまらず他の建築関連の団体とも連携をとって協力しあうことも必要であるとする。

平成23年度NPO等による文化財建造物の管理活用事業

(1) 事業名称等

【事業名称】	歴史的建造物修復技術講習会
【実施団体】	社団法人 富山県建築士会
【事業経費】	576,000円

(2) 事業の目的

富山県内の伝統的保存地区や歴史的町並み、登録文化財

⇒ 調査、修理、修景、維持管理、活用

⇒ 知識と技術をもった設計者が必要



- 実践的な研修会の開催 …… 参加者が実務に活かすことができる
- 歴史的町並みでの開催 …… 住民の歴史的建築物への関心を高める

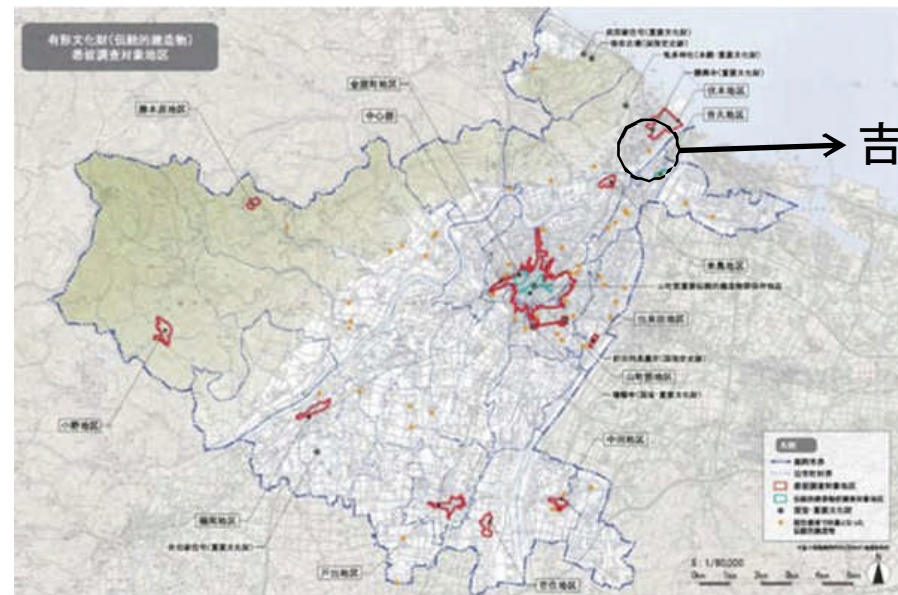
(3) 事業活動の内容

歴史的建造物修復設計のための調査手法の研修

- 会場：旧津野家
- 講師：金沢職人大学校で指導をしている設計実務者と技術者
- 協力：金沢職人大学校・吉久町家まちづくり研究会
- 運営：富山県建築士会 歴史的建造物修復技術講習会担当者



高岡市位置



吉久位置

研修会場 旧津野家住宅



旧放生津往来に沿った吉久の町並み



旧津野家外観



旧津野家内部

- 1回目 平成23年11月20日（日）
歴史的建造物の調査手法についての概要説明
平面、展開のスケッチ作成
- 2回目 平成23年11月26日（土）
実測調査をして平面、展開の野帳を作成



3回目

平成23年12月3日(土)

柱の傾斜、不陸の調査方法、記録方法の研修



4回目

平成23年12月17日(土)
破損、腐朽についての調査方法、記録方法を研修し
その原因を考察する



5回目

平成24年1月14日(土)
建物に残る痕跡の調査方法、記録方法を研修し
間取りの変遷を考察する



6回目

平成24年1月28日(土)

痕跡調査の結果をもとに吉久地区の他の建物の類例調査をする
吉久地区の住民より昔の建物や生活について聞き取りをおこなう



聞き取り調査 …… 吉久のお年寄りから話を聞く



7回目

平成24年2月18日(土)

調査に基づく所見の作成方法の説明を受け

班別に報告書作成作業をおこなう

金沢に移動し、武藤講師の町家改修現場の見学をする



最終回講義



金沢現場見学



(4) 事業の成果

- 金沢職人大学校の協力により研修を実務に近い形で行うことができた
- 調査報告書の作成をすることで歴史的建造物修復設計のための調査手法の理解が深まった
- 地区のまちづくり団体と協力することで互いに得るものがあった



(5) 事業実施後の課題

- 若い人の参加が多く、若い層にも興味を持ってもらえた企画だったと思う。今後も若い年代層や女性も参加しやすい組織づくりや企画をすると共に、建築士会会員にも歴史的建築物への興味を喚起するような働きかけをすることが必要である。
- 今後の講習会等に継続して修了認定が受けられるような仕組みをつくり受講者の参加意欲を高めることが必要である。

(6) 今後の展開

- 第2期の講習会では今回実施できなかった課題を含めて研修をおこなう。
- 講習会を各業種の職人と設計者との協力関係づくりのきっかけとしたい。職人と設計者とのネットワークをつくっていく。
- 今後の講習会の開催、運営や講習会修了者のネットワークをつくっていくことを目的に建築士会内に新たな組織をつくり、そこで講習会修了者が職能を活かした社会貢献ができるような場を作っていく。
- 講習会修了者が建築技術者集団として行政とも連携をとり、文化財建造物ならびに歴史的建造物に関する相談窓口の役目をすることを目指していく。また建築士会ホームページなどを利用して活動をPRすることを計画している。
- 継続して講習会を開催することならびに活動をするためには建築士会としての協力が必要であるが、建築士会にとどまらず他の建築関連の団体とも連携をとって協力しあうことも必要であると考えている。